

平成 24 年度「学生による授業評価アンケート」の結果について

1. はじめに

東京都立産業技術高等専門学校では、平成 21 年度より「学生による授業評価アンケート」を始め、今年で 4 回目となります。アンケートの内容・評価方法については、平成 21 年度の結果報告の反省点をふまえて平成 22 年度実施よりアンケート内容に若干の修正を加えています。本報告では平成 24 年度の報告に加え、平成 23 年度と平成 24 年度の各質問項目に対するアンケート結果の比較についても報告します。

2. アンケートの実施概要及び内容

(1) アンケートの実施概要

- ◎実施の趣旨：各教員の授業方法のスキルアップを目指す FD の一環として実施
- ◎調査対象：本校教員の開講している本科及び専攻科の全授業（非常勤も含む）
- ◎実施形態：学期の最後の授業時に学生にアンケートを実施
- ◎回収率：ほぼ 100%に近い回収率

(2) アンケート内容

アンケートの質問内容

<座学系>

- 質問 1. 授業時間外でもこの科目の勉強をするように努めた
- 質問 2. 授業中、勉強をしやすい雰囲気があった
- 質問 3. 講義の仕方が明瞭でわかりやすかった
- 質問 4. 板書や掲示資料は見やすかった
- 質問 5. 授業の中で授業内容、評価方法等(シラバス)についての説明があった
- 質問 6. 授業内容や評価方法はシラバス通りに適切であった
- 質問 7. 総合的にこの授業には満足できた
- 質問 8. 教科書・指導書・プリントは役に立つ教材であった
- 質問 9. この授業によって、この科目に対する力がついた(達成感があった)
- 質問 10. 教員は学生の方に視線を向けて話していた
- 質問 11. この授業によってその関連する教科に興味や必要性を感じることができた

＜実技実習系＞

- 質問 1. 実技や実習に遅刻することなく積極的に取り組んだ
- 質問 2. 実技や実習にふさわしい服装で臨んだ
- 質問 3. 教員は装置や器具の使用方法を適切に指導していた
- 質問 4. 提出した課題等に対して十分なコメントが返ってきた
- 質問 5. 授業の中で授業内容、評価方法等(シラバス)についての説明があった
- 質問 6. 授業内容や評価方法はシラバス通りに適切であった
- 質問 7. 総合的にこの授業には満足できた
- 質問 8. 教科書・指導書・プリントは役に立つ教材であった
- 質問 9. この授業によって、自分の技術力・能力が上がったと感じた
- 質問 10. 教員は学生の方に視線を向けて話していた
- 質問 11. この授業によってその関連する教科に興味や必要性を感じる事ができた

回答方法

上記質問に対し、学生の皆さんには次の4段階評価で回答してもらいました。

- | | | | |
|-----------|--------------|-----------|---------|
| ① あてはまらない | ② あまりあてはまらない | ③ ややあてはまる | ④ あてはまる |
| 評価点数：(1点) | (2点) | (3点) | (4点) |

(4段階評価について)

昨年度と同様に授業評価がどちらよりであるのかを明確にする趣旨により、中間点をあえて設定しないで4段階での評価法を導入しました。

(アンケートの実施形態)

アンケートは、授業を担当する教員が学期末の最後の授業時に自ら実施し、回収して教育企画改善室に提出する手法をとりました。

(3) 各教員へのアンケート結果の報告方法

アンケート結果の集計は、教育企画改善室が行い、各教員への通知を行いました。

3. 本科アンケート結果

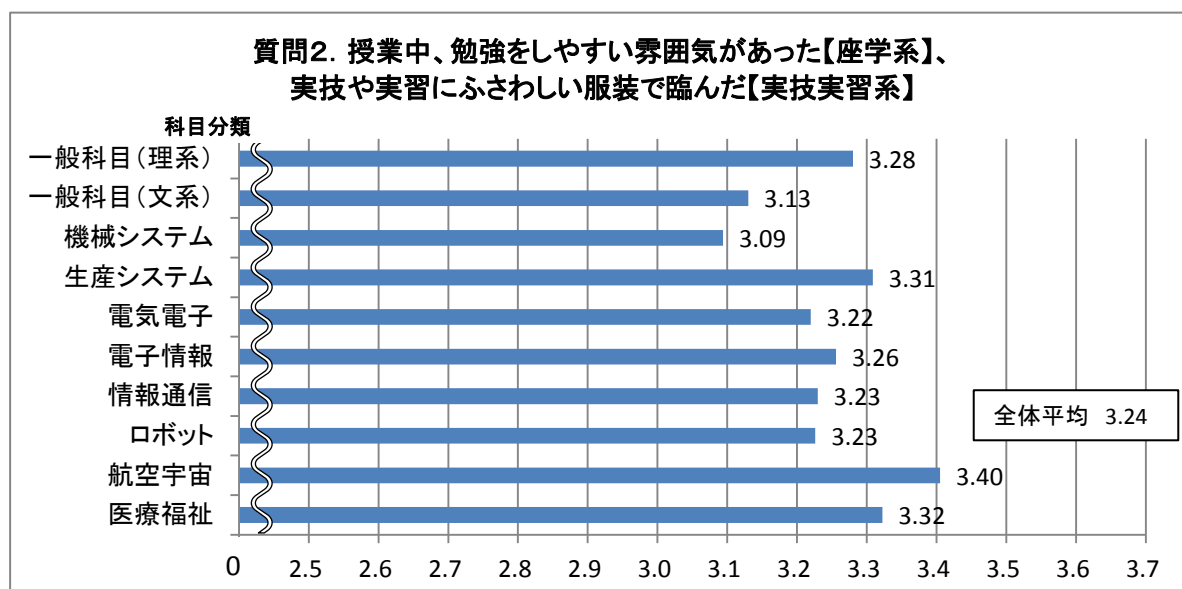
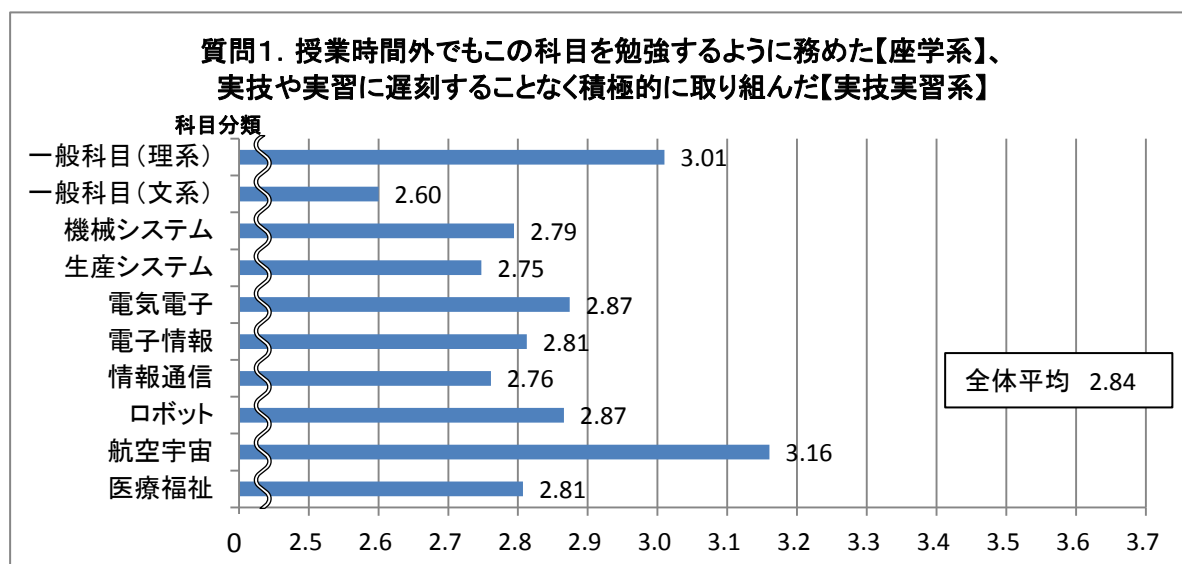
(1) 各質問に対する評価点数の平均値

図1は各質問に対する科目分類ごとの評価点数の平均値をあらわしています。図1からわかる特徴としては、質問1「授業時間外でもこの科目を勉強するように努めた【座学系】、実技や実習に遅刻することなく積極的に取り組んだ【実技実習系】」、質問9「この授業によって、この科目に対する力がついた(達成感があった)【座学系】」

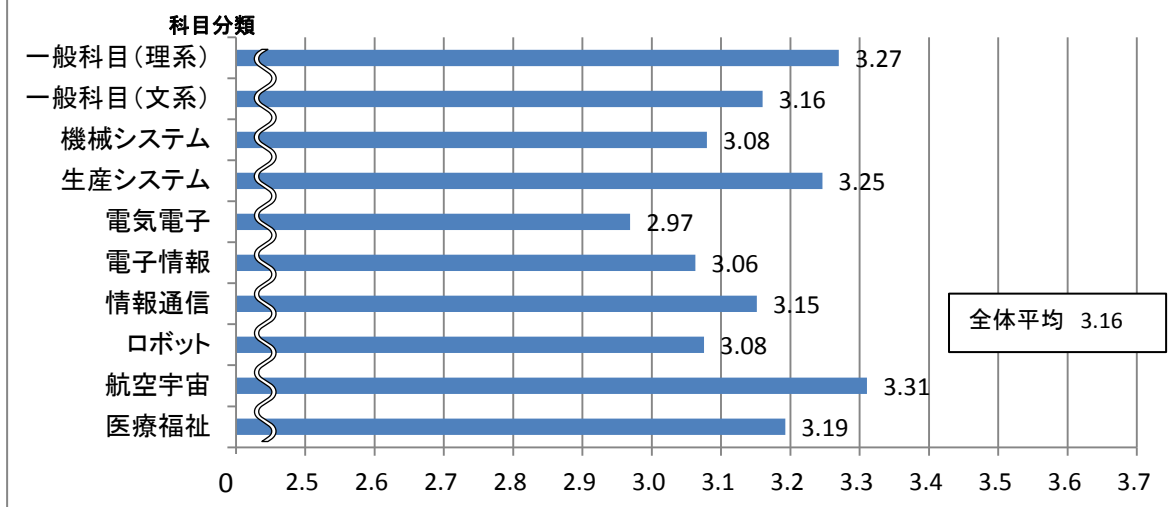
系]、この授業によって、自分の技術力・能力が上がったと感じた【実技実習系】に対する平均値が低いということがあげられます。質問 1 は授業時間内外での学生の勉強意欲を表すものであるため、学生の学習意欲を高める工夫が各教員にとって必要であると考えられます。質問 9 は、学生の科目修得に対する達成感を表しているため、授業時間内での学生の能動的学習（問題を自ら解く等）の大小の影響が出てきている可能性があると考えられます。一方で質問 1、質問 9 に対する一般科目（理系）および航空宇宙工学コースの平均値は他の科目分類の授業の平均値と比べると高くなっています。この理由としては、一般科目（理系）および航空宇宙工学コースの授業では、授業中に学生が問題を多く解き学生の理解を深めるなど能動的学習の機会が多く提供され、授業時間内における勉強に向かった実感や達成感が高いことが考えられます。

最も平均値が高かったのは質問 10「教員が学生の方に視線を向けて話していた」であり、この項目は本校では毎年高い評価点を得ています。また、質問 5「授業の中で授業内容、評価方法等（シラバス）についての説明があった」及び質問 6「授業内容や評価方法はシラバス通りに適切であった」はシラバスに関するアンケート内容ですが、どの科目分類においても高い評価点を得ています。

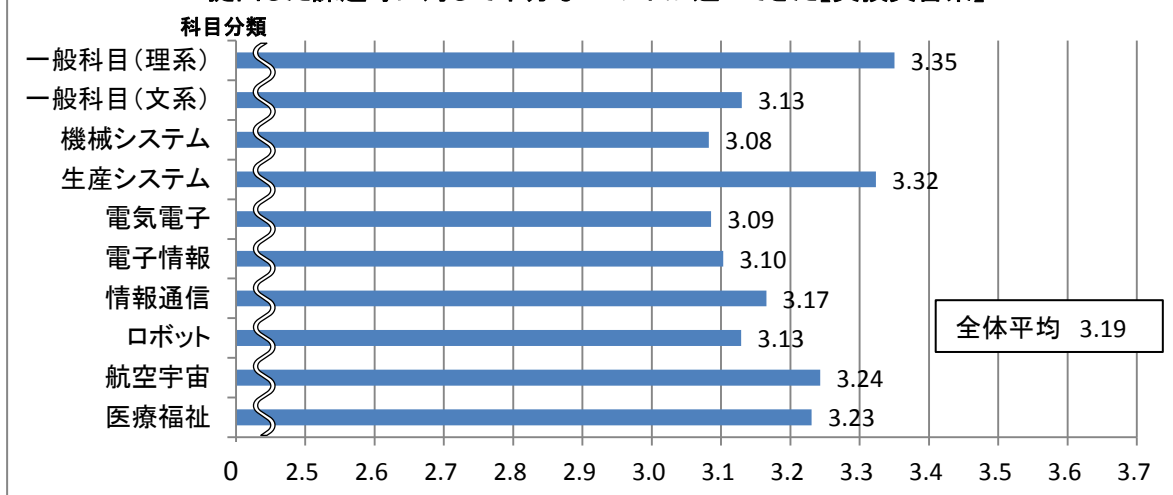
図 1：各質問に対する評価点数の平均値（本科）



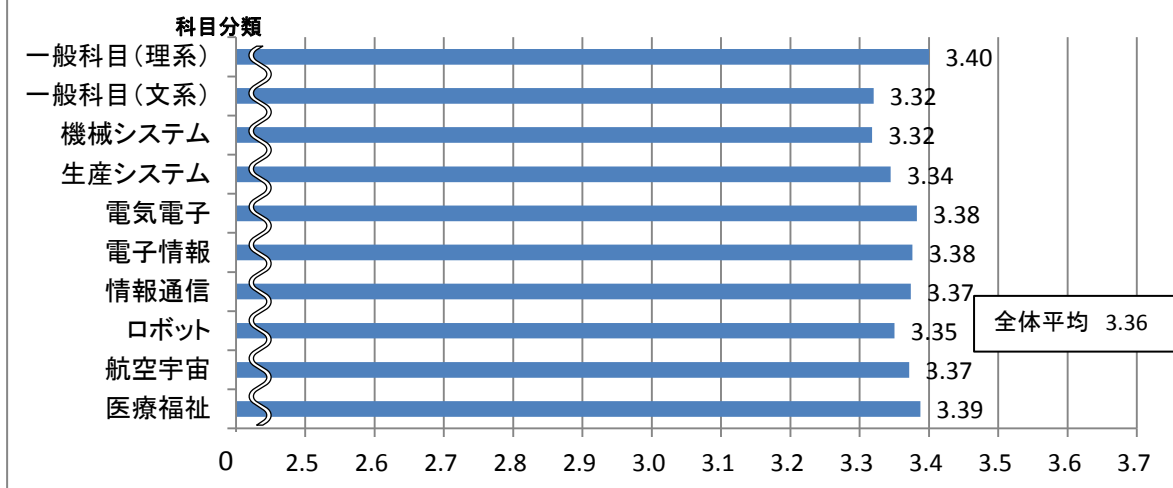
**質問3. 講義の仕方が明瞭でわかりやすかった【座学系】、
教員は装置や器具の使用方を適切に指導していた【実技実習系】**

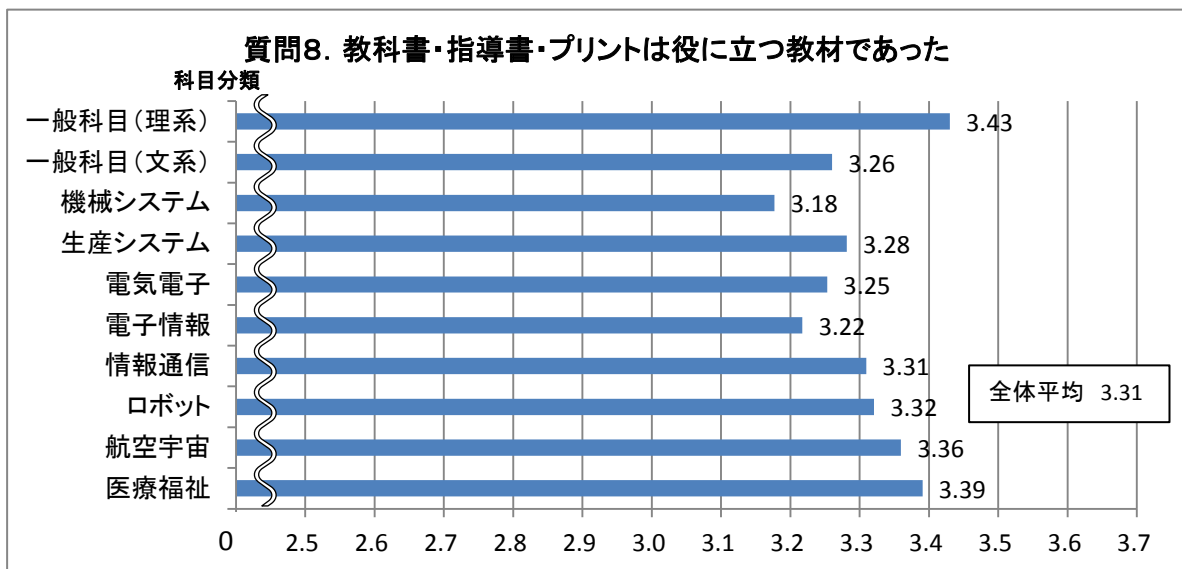
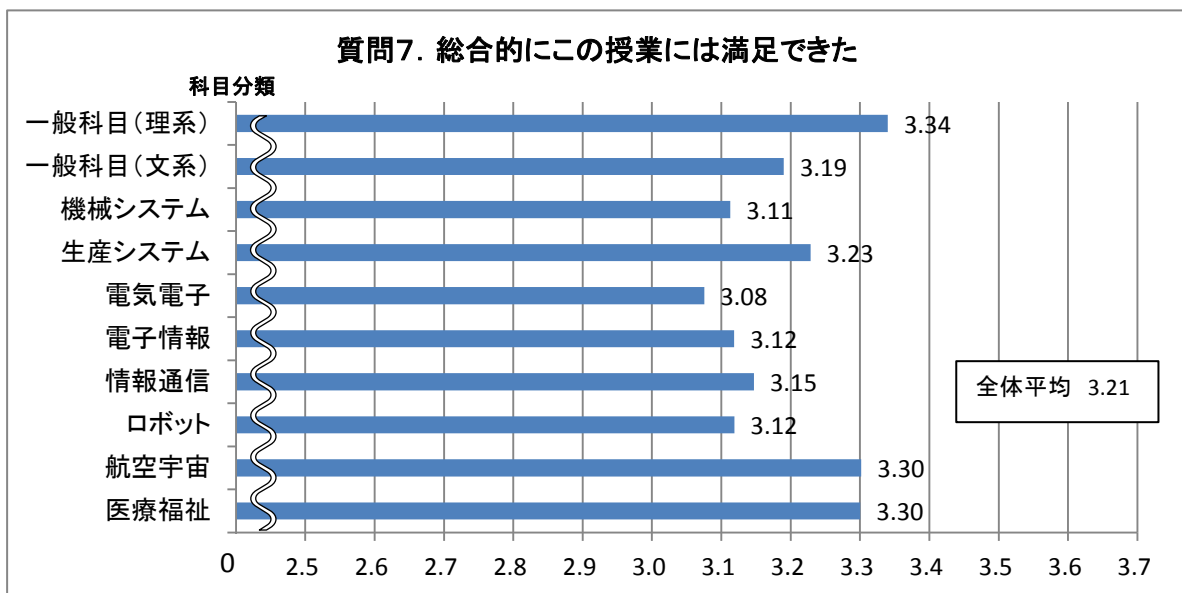
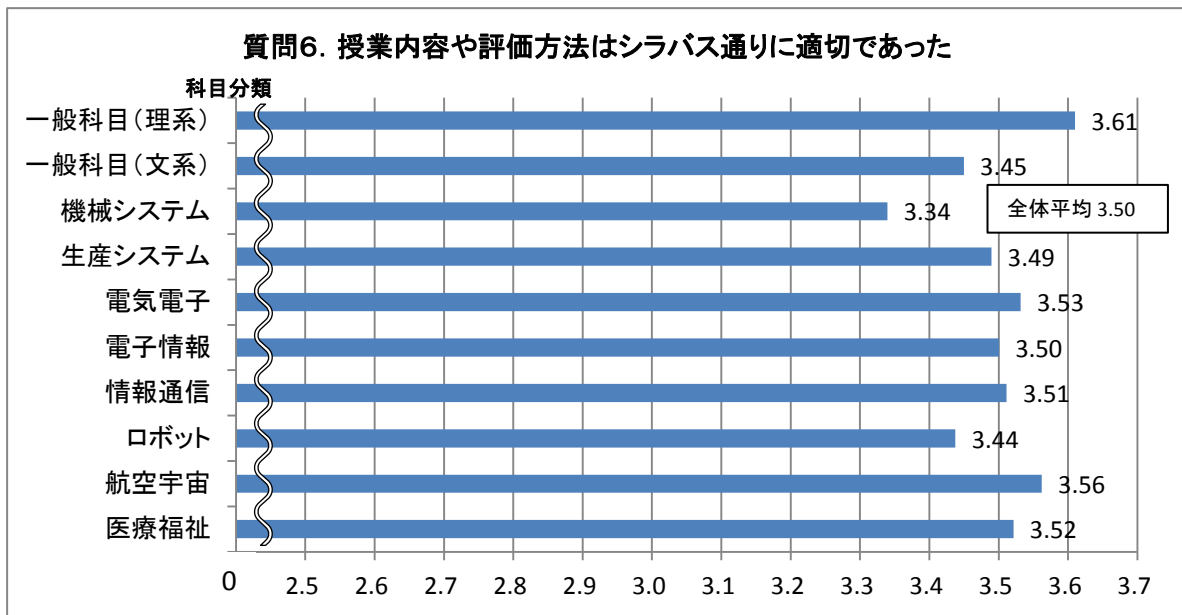


**質問4. 板書や掲示資料は見やすかった【座学系】
提出した課題等に対して十分なコメントが返ってきた【実技実習系】**

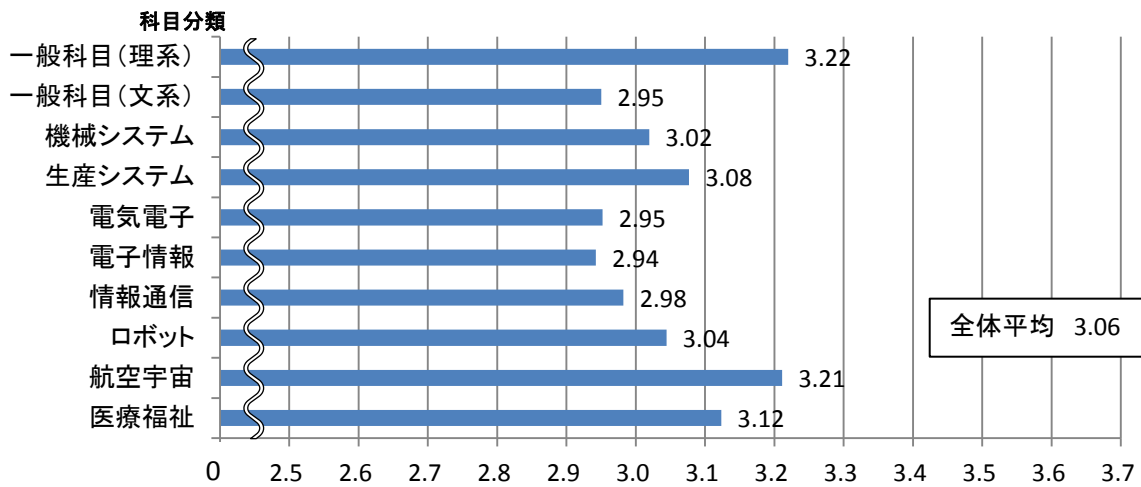


質問5. 授業の中で授業内容、評価方法等(シラバス)についての説明があった

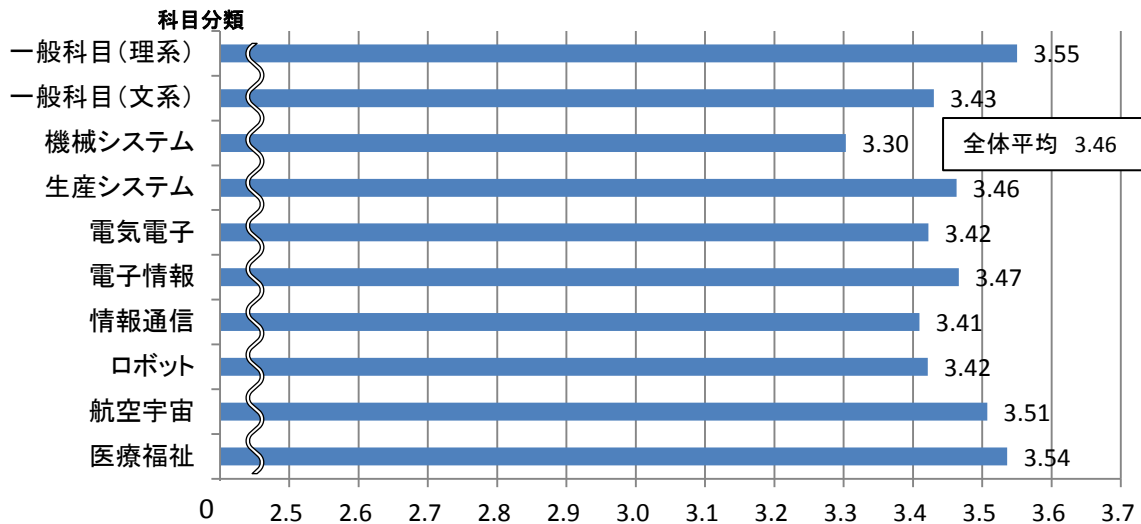




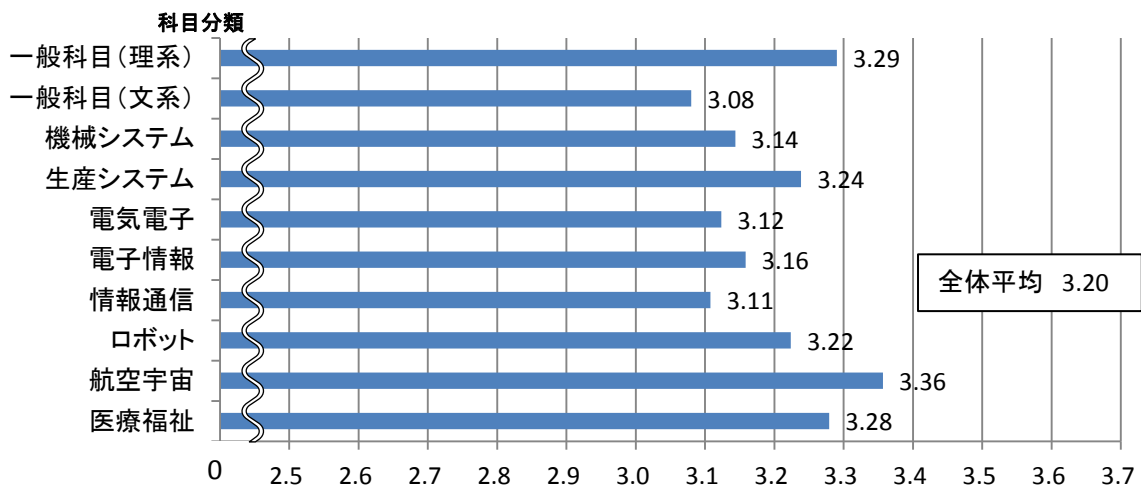
**質問9. この授業によって、この科目に対する力がついた(達成感があった)【座学系】
この授業によって、自分の技術・能力が上がったと感じた【実技実習系】**



質問10. 教員は学生の方に視線を向けて話していた



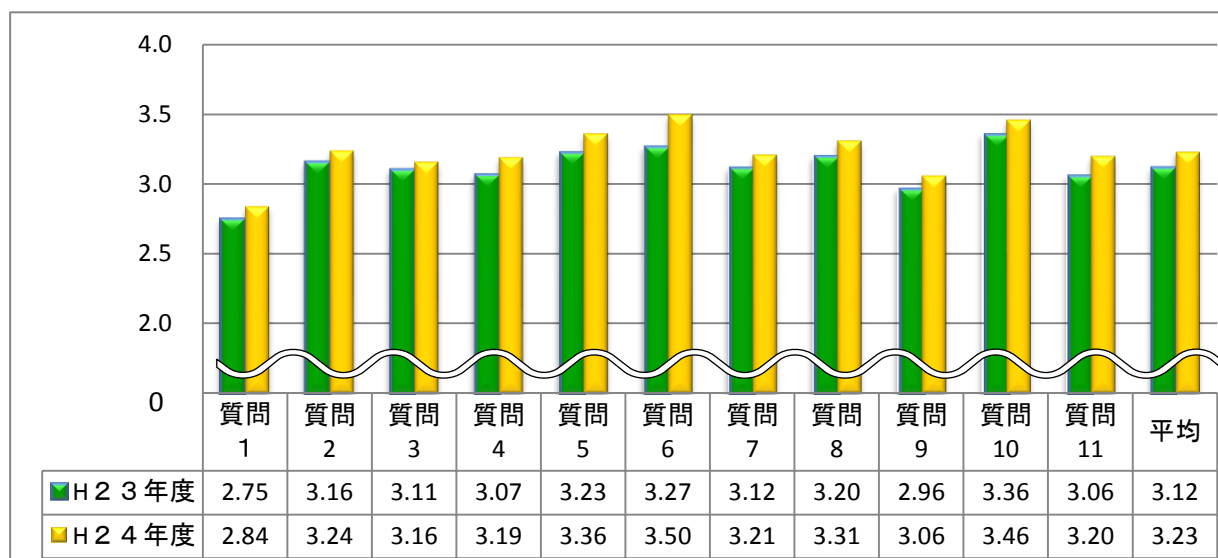
質問11. この授業によってその関連する教科に興味や必要性を感じることができた



(2) 平成 23 年度と平成 24 年度のアンケート結果の比較

1 で述べた様に、平成 24 年度に実施したアンケート内容は平成 23 年度のものと同様であるため、各質問に対するアンケート結果の比較を行うことができます。図 2 は、平成 23 年度と平成 24 年度の各質問に対する全科目分類の評価点数の平均値の比較を表したものです。図 2 を見ると、平成 24 年度の平均値は、すべての質問項目において平成 23 年度の平均値を上回っていることがわかります。このことから、FD の一環として教育企画改善室で行ってきた「授業評価アンケート」や「教員間の授業公開」、「各種研修事業の開催」等は、教員の授業力を向上させる一助になっていると判断することができます。

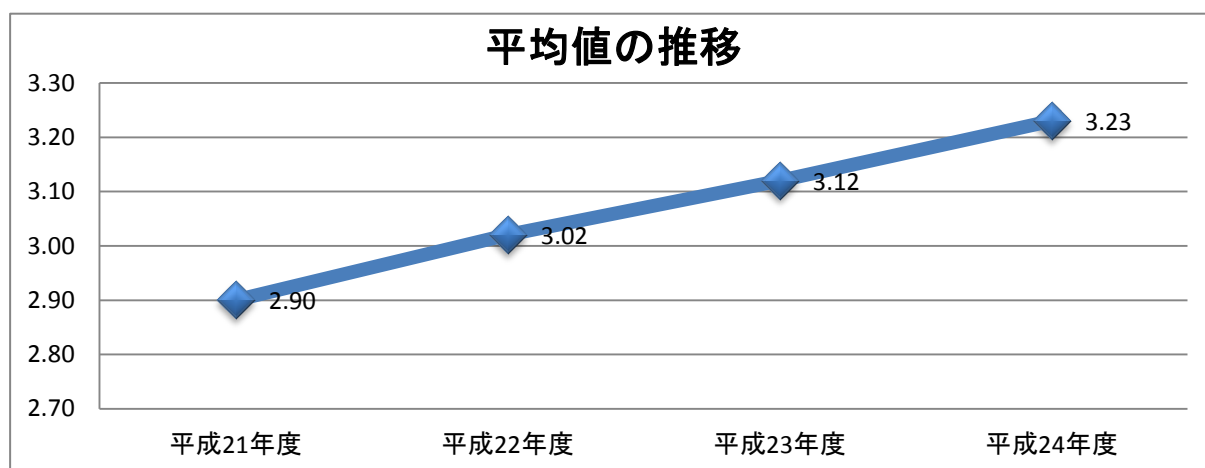
図 2. 平成 23 年度と平成 24 年度の評価点数の平均値の比較（本科）



(3) 過去 4 年間のアンケート結果の推移

図 3 は過去 4 年間の各質問に対する評価点数の平均値の推移を表しています。先に述べた様に、アンケートの質問内容が平成 21 年度のもの、平成 22 年度～24 年度のものとは異なっているため、4 年間の厳密な比較を行うことはできませんが、取り上げているデータが各質問全体の平均値であるため、学校の授業力を計る目安としては有効であると考えられます。図 3 からは、毎年着実に平均値を伸ばしていることがわかります。

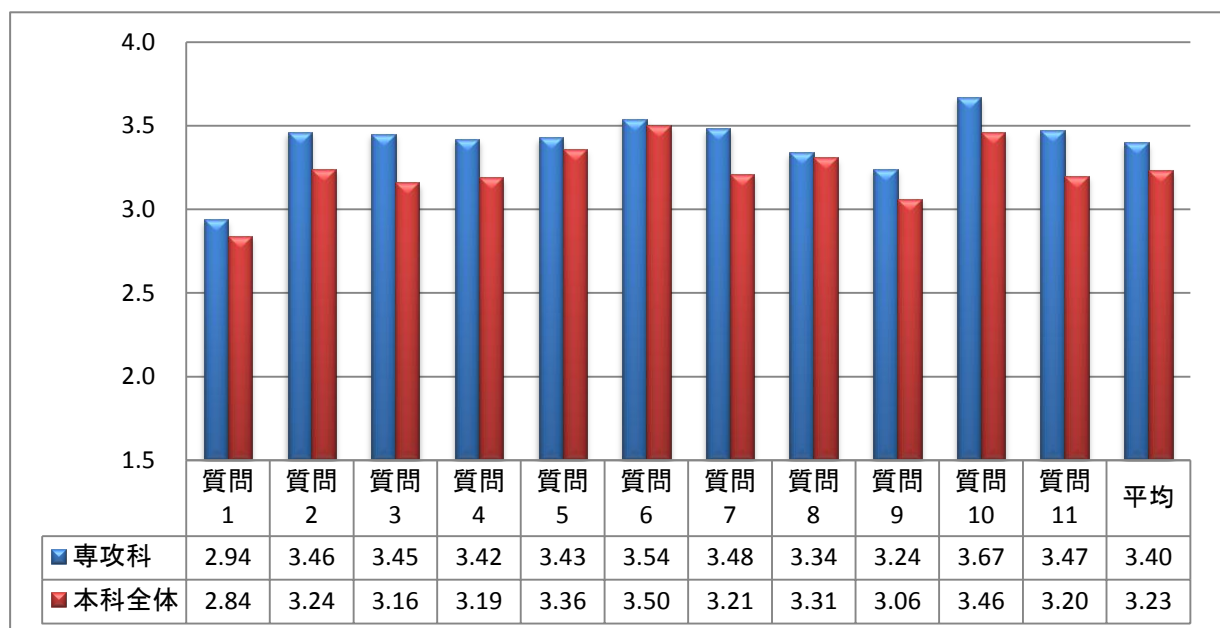
図 3. 過去 4 年間の評価点数の平均値の推移（本科）



4. 専攻科アンケート結果

図4は平成24年度における専攻科学生と本科学生の各質問に対する全科目分類の評価点数の平均値の比較を表しています。図4を見ると、専攻科における各質問に対する平均値は、全て本科の平均値を上回っていることがわかります。専攻科の授業は、本科の授業に比べて受講学生数が少なく、少人数で行われています。その結果、教員側は学生の理解状況をつぶさに把握することができ、いわば「きめの細かい授業展開」が出来ている状況からこの様なアンケート結果になったと推測することができます。

図4. 専攻科学生と本科学生の評価点数の平均値の比較



5. まとめ

平成21年度に教育企画改善室が発足し、FDに関わる様々な取り組みを行ってきましたが、図2、3を見る限りでは、これらの取り組みの成果が結果となって表れていると言えます。この結果に満足せず、引き続き個々の教員の授業力を向上させるために様々な研修体系を確立していこうと考えています。また、昨今の教育の場では、学生の能動的学習が着目されており、学生参加型の授業体系についても様々な可能性を議論し、教員全体のコンセンサスを得る必要があると考えられます。

平成25年6月
教育企画改善室